

九州大学経営協議会議事録

日時：平成29年3月21日（火）13：00～14：45

場所：九州大学 椎木講堂大会議室

出席者：28名中21名出席

【審議事項等】

1 平成29年度計画について

平成29年度計画の概要について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・GPA2.0以上を卒業の目安とするとのことだが、現時点でGPA2.0以下の学生が何パーセントいて、何パーセントの学生が条件をクリア出来ないと見込んでいるのか。
→正確なパーセンテージは分からないが、そう多くない割合である。現時点では卒業の必須要件ではなく努力目標としている。
- ・全体的に意欲的な計画だと評価している。特にエネルギー関連研究、若手研究者・女性研究者の育成・支援、強靱なサイバーセキュリティ環境の構築については期待しており、実行していただきたい。希少がんに関する取組み状況はいかがか。
→期待されている取組みについては着実に実行していきたい。希少がんについてはまとめた資料がないので、調査の上、回答申し上げたい。
- ・教育・研究の質向上のために評価は欠かせない手段ではあるが、教員が評価疲れとなることのないよう、配慮いただきたい。
→今回の年度計画で掲げたものは、教員側の負担を増やすものではない。教員の評価に関する負担を減らすための取組みを進めている。入力項目の削減や「教員活動評価支援システム」と「大学評価情報システム」の統合など、教員の負担を減らす取組みを進めている。
- ・安全管理に関する取組みについては、実験に関する安全管理教育も加えるべきではないか。
→実験に関する安全管理についても指導はしているが、徹底は出来ていない状況にあることは認識している。これから徹底に向けて検討していきたい。
- ・研究倫理教育は教員のみでなく、学生にも受けさせるべきではないか。
→学生、ポスドクにもe-Learning教育を受講させるなど、研究倫理教育を行っている。
- ・女性比率の向上に関しては、研究者のみでなく事務職員に関しても重要な事項。また、研究に関する支援のみでなく、授業負担も相当なものがあると思料されるので、教育に関する支援も行っていたきたい。女性研究者比率を15パーセントにするとのことだが、現実的な数値として考えられるのか。
→貴重なご意見として承る。ライフステージにあわせた支援を行い、女性教職員が活躍できる環境整備を計画している。女性研究者比率は現在13.7パーセントであり、15パーセントは現実的な数値目標と考えている。
- ・障害を有する学生への支援体制として、就職支援に関してはインターンシップを計画するなどが考えられるが現在の状況はいかがか。
→就職支援体制に関してはインターンシップ協議会などと協議しているところ。検討課題として挙げているが、支援体制として具体的なものには至っていないのが現状である。
- ・最近、全国紙などで九大の研究成果がよく取り上げられており、存在感が向上していると

感じる。これからもこのペースで続けてほしい。

- ・現行スパコンの性能を大きく上回る次期スパコンの運用を開始することだが、どれくらいの性能のものか。また九州大学のスパコンの特性はどのようなものか。
 - スパコンについては、京・ポスト京など日本全体の計画があるなかで、九州大学としては次のレイヤーのところで最高のものを導入したいと考えている。今年度はスパコン入れ替えの時期であるので、戦略的に次期スパコンを導入していきたい。九州大学のスパコンは研究用計算機として使用するもの、大型データサイエンスに適したものとなっている。
- ・留学生を増やしていく計画となっているが、留学生を増やすことで大学の財政は圧迫されるのか。留学生の受入先として特定の二カ国で6割以上を占めているが、この割合についてどのように考えているのか。
 - 留学生については私費や国費で来学している者も多く、必ずしも大学の手出しになるものではない。留学生を受入れるための環境整備は必要であるが、財政を圧迫しない範囲での配慮を行っている。留学生の受入れ先については、多様性の観点からも特定の国に偏っていることは好ましくないと考えており、他の国からの割合を増やしていきたいと考えているところ。

2 国立大学法人九州大学予算編成方針等について

第三期中期目標期間における予算編成方針等について説明があり、審議の結果、これを議決した。

なお、以下のような質疑応答があった。

- ・世界大学ランキングには、さまざまな指標があり、その結果に一喜一憂するものではないが、無視は出来ない状況かと考える。どのような対策を考えているか。
 - ランキングに振り回されるものではなく、研究の国際競争力を強化することによってランキングは上昇するものと考えている。インパクト・ファクターの高い雑誌に掲載された論文数に応じて教育研究基盤校費を増額する仕組みを導入している。
 - 世界大学ランキングタスクフォースを設置し、世界大学ランキングへの対応について協議を行ってきた。研究の国際競争力向上のための4つの方策を策定し、それぞれに実行プランを掲げている。
- ・全学的な補助金等については、その取扱い等について各種委員会を経て総長が決定することになっているが、突発的な事項に対応出来るように、緊急時は委員会を経ずに総長が決定出来る旨の但し書きを加えてはいかかか。
 - 貴重なご意見として承る。今後検討させていただく。
- ・博士号の授与状況や科研費の申請率など、一定の割合を達成した部局には増額配分をすることとしているが、逆に一定の割合を達成できなかった部局に減額配分をするといった仕組みにはしないのか。
 - 基本的にはいい所を評価し加算する仕組みとしている。一方、研究倫理教育やコンプライアンス教育など、義務的に受講しなければならないものを受講していない部局については、減額措置を行うこととしている。

- 3 国立大学法人九州大学会計規則の改正及び平成 29 年度資金管理方針等について
国立大学法人九州大学会計規則の改正及び平成 29 年度資金管理方針等について説明があり、審議の結果、これを議決した。
なお、以下のような質疑応答があった。
- ・ 余裕金の運用益は九州大学基金へ繰入れることとなっているが、運用損が出た場合どのように取扱うのか。
→ 運用損が出た場合は基金から支出する等の対応を取ることもなるかと思うが、基本的には元本を保証するものを選定するなど、運用損が出ない確実性の高い運用を行っていく。

【その他、報告事項等】

- 九州大学の国際戦略について
九州大学の国際戦略について説明があり、以下のような質疑応答があった。
 - ・ 海外同窓会の現状はいかがか。
→ ベトナム、台湾、インドネシア等に海外同窓会があり、元留学生や駐在日本人の交流の場となっている。総長も現地同窓会に出向き、プレゼンスの向上を図っている。海外同窓会との協力を強化し、レピュテーション向上や優秀な留学生の獲得につなげていきたい。
- 平成 29 年度入学試験の志願状況について
平成 29 年度入学試験の志願状況について報告があった。

(以 上)